

子育て支援を中心に幅広く質問しました

6月7日から14日にかけて6月議会が行われました。今回は期間が短いこともあり、一般質問は会派から一人という中、会派の皆さんとのご配慮で私が質問に立たせていただきました。産後初めての本会議一般質問ということもあり、子育て支援関係を中心に、以下のような項目で質問しました。かぜをひいて咳き込みながらの質問になってしまい、傍聴の方やケーブルテレビの中継をごらんになった方にはお聞き苦しかったことをお詫び致します。それでも言いたいことはたくさんあって、1時間があつという間に過ぎてしまいました。比較的前向きの答弁が多く、早く形になることを期待したいと思います。

1 少子化対策と子育て支援

1) 共同の子育て環境

働き方 時間差出勤
出産前からの計画的なプログラムによる一連の学習
乳児保育所の見学
母と子の図書館から子育て図書館へ
核家族から多世代家族への住宅政策

2) 母乳育児について 公共施設の授乳室

Q 赤ちゃんはできるだけ母乳で育てる方が良いと言うことは一般的に言われますが、栄養面だけではなく、基本的信頼関係にも大変影響すると思います。そのうえ、お母さんが赤ちゃんを愛しく見つめながら、ゆとりを持って飲ませる時と、テレビを見ながら適当に飲ませる時と、成分さえもが変わってしまうという不思議なものです。そのオキシトシンという成分は、ストレスから脳を守り、キレにくくすると言われています。

母乳を与えるということは、簡単なようで、出産後、実は多くの母親が最初にぶつかる壁です。出産すれば自動的に適量が誰しもできるというものではなく、ケアが必要な場合が多くみられます。赤ちゃんの成育にとっても、重要なことだけにぜひ専門的な指導に結びつけて望まれる方のできるだけ多くが母乳育児ができるようにしていただきたい。また子供を連れて外出する際、デパートやショッピングモール以外では授乳できる所が少く、市民がよく利用する公共施設に最近はオムツ換え場所はありますが、授乳室がなく困ります。今後、市民が多く利用する公共施設にスペースが必要ではないか?と尋ねました。

A 「公共施設の授乳室の設置状況は、『子どもの館』や『子育てふれあい交流プラザ』は当然ながら設置。市役所は小倉北、小倉南区役所にそれぞれ設置しており、現在建設中の戸畠区役所新庁舎も設置する予定。他の区役所については、現在のところ授乳室のスペース確保が難しい状況にあり、今後、事務室スペースの見直しなどの際に設置する方向で検討していきたい」などの答えでした。

3) 子育てスペースについて

地域の子育てスペース



4) 学童保育について 早急な待機ゼロへ

(時間の関係で強く要望)

5) 子育て情報について

正確な最新の情報発信 インターネット
子育てマップ

6) 障害児とともに遊べる公園について

Q 子育て支援を考える中で、より支援が必要なのは、障害児をお持ちのご家族ではないでしょうか?子供を外に連れていってあげたくても、障害によっては普通の公園では子供たちが使える施設や遊具になっておらず、遊びにくかったりします。札幌市では障害児をもつ親御さんたちもワークショップに参加し、意見を出し合い、目や耳が不自由でも楽しめる遊具や設備、転んだときのショックを和らげるやわらかい材質の園路など工夫された公園ができています。ぜひ本市でも新たな公園整備の際、関係者に入っていただき障害児とともに遊べる公園づくりをしていただきたい。と尋ねました。

A 「本市では、障害のある人もない人も、誰もが公園を安心して利用できるように『北九州市福祉都市環境整備要綱』に基づき、計画的に入口の段差の解消、階段のスロープ化、手すりの設置等、バリアフリー化を積極的に推進している。議員提案の札幌市の『藤野むくどり公園』は障害児が安心して遊べる遊具が設置され、整備後の運営、維持管理まで、障害児の親や関係団体が積極的に関わっていることが特徴と聞いています。

本市も昭和54年に他都市に先駆け、総合体育館のある中央公園の一角に、『福祉公園』を整備しているが、建設後30年近く経っていることから、本年度に再整備計画の策定を予定している。その中で『障害児がともに遊べる公園』として、どのような取り組みができるのか関係団体等とも協議しながら検討したい。」との答えでした。

2 若松区のまちづくり

1) 中心市街地について

若松井筒屋駐車場跡地の活用について

2) 高塔山公園について

Q 高塔山公園の再整備については私も1期目から何度も質問をしてきましたが、今年度山頂の展望台付近の基本計画をすることがやっと決まり、来年以降に実施設計、そして平成20年を目指して整備される予定と聞いています。再整備は現在の展望台を活かして行われると伺っていますが、ぜひバリアフリーにしていただきたい。またこれまで市民の皆様がまちづくりワークショップなどでまとめたものが要望として出されており、できるだけ取り入れながら設計をしていただきたい。と尋ねました。

A 「ご要望の展望台のバリアフリー化は、今回の再整備計画の中で、現在の展望台を活かしながら、屋上まで車椅子で上がれるように、検討したいと考えている。今後とも、高塔山公園の再整備にあたっては、若松ファン俱楽部の提言も含め、地元の関係団体等のご意見をいただきながら進めていきたい。」との答でした。

3) トマトサミットについて

トマトの産地若松でトマトサミットを行ってはどうか



3 北九州市立病院と地域の医療体制

1) 厚生年金病院の今後について

2) 産科体制について

3) 電子カルテの導入について

Q 医療センターをはじめ市立病院ではカルテの電子化が進んでおり、いまだに患者さんがカルテを持って回っている現状があります。また、患者さんが他の市立病院で受診し、医療センターに受診する際、カルテを本人が持っていくなければならないなど大変IT化が遅れています。院内はもちろん他の市立病院とも連動した仕組みを作り上げるべきではないか?と尋ねました。

A 電子カルテについては、患者サービスの向上、医療安全の確保、医療の質の向上など、さまざまな効果が期待され、その必要性を十分認識している。一方で、電子カルテの導入には膨大な費用負担が必要で、経営的なリスクも大きく、慎重に検討することも必要。今年度は、まず医療センターへ電子カルテを導入した場合、その費用対効果を専門のコンサルタントに委託し詳細な調査・分析を、現在、進めている。」との答えでした。

子供をもって改めて勉強させてもらっています。



早いものでわが子晃一朗はもう10ヶ月。あいかわらずのジャンボぶりで、体重も約11キロになりました。伝い歩きとハイハイでいつもどこかへ移動し、一時も目を離せません。言葉もなんとかパパママを言えるようになります、他は意味はわかりませんが、よく語っています。名前を呼ぶと手を上げたり、バイバイなど少し芸ができるようになりました。とにかく食欲旺盛で離乳食をびっくりするくらい食べるのに太りすぎが気になりますが、何よりも元気に育ってくれていることをありがたく思う今日この頃です。

母親になって、改めて子育ての本や、乳幼児の心身の発達に関する本をよ

く読みますが、読めば読むほど人は乳幼児期にいかに育ったかが一生を決めるというくらいこの時期的重要性を強く感じます。時折「どうせゼロ歳の頃は何も覚えていないのだから…」という声もお聞きしますが、実はこの時期に人間の信頼関係の基本が培われ、脳の発達においてもこの0歳の頃がもっと大切で、人間の脳の発達は、その8割が3歳までで完了するとのことです。良質の刺激を受けた子と刺激のない子の発達は明らかに違いがあり、グラフを見ると1歳までのグラフの角度と同じ角度で3歳まで発達し、そして3歳以降カーブが緩やかになります。つまり、0~1歳のときに作った成長



わんぱくでいつもこの調子でやられています。

カーブが、非常に重要だそうです。6月議会ではこのことをぜひ一人でも多くの方に知っていただきたいという思いもこめてこの時期からの体系的な子育て支援について質問をしました。子供をもって改めていろんな勉強をさせてもらっています。かといって自分の子育てがちゃんとできているかというとそうでもなくて、他のお子さんに比べ接する時間も少なくいつも葛藤しています。

せめて私の子育てのこだわりは、「食育」です。ご飯は可能な限り素材を選んで愛情をこめて自分が作る。そしてできるだけ一緒に楽しくご飯を食べる事を大切にしています。